



議員 幸 晃 脇 門 会 生 蒼

プログラミング教育への取組み状況は

教育長

指導計画等を作成し学校ごとの計画・構築を支援している

公教育について問う

**質問** 仙北市の児童生徒への新型コロナウイルス対策は万全か。

**答弁** (教育長) 政府の新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた要請に応じ、市内全小・中学校を3月2日から3月21日まで臨時休校とし、引き続き



閑散とした休校中の学校

き4月4日までを春季休業と決定した。各学校では、休校・休業期間中もアルコール消毒液による手洗い、うがい、定期的な換気等を励行し、児童生徒への指導とともに、保護者にも協力を依頼している。また、適宜電話や家庭訪問等で児童生徒の状況を確認しながら、感染予防が継続される

よう依頼している。

**質問** 来年度から実施となるプログラミング教育への取組み状況は。

**答弁** (教育長) 令和2年度から初めて導入されるプログラミング教育については、北浦教育文化研究所が中心となり、教員の指導に対する不安軽減を目的とした教育体験研修会を、昨年度は3回、今年度は5回開催している。プログラミング教育は主に小学校であり、中学校は技術・家庭の教員が担当する。教育委員会では、低中高学年の発達段階に応じたプログラミング教育で育成したい資質能力表、仙北市プログラミング教育年間指導計画を作成し、各小学校に配布し、学校ごとの計画や構築を支援している。仙北市はドローン教育を早期に導入し、県内では先駆的な取組みを実施しており、他市町村から資料要求の依頼もある。

**質問** 教員の働き方改革として教員の増員が有効というが、現状の教員1人当たりの生徒数と理想的な人数は。

**答弁** (教育長) 昨年度の文部統計要覧等によると、常勤の教職員1人当たりの児童生徒

数の平均は、小学校が全国で15.3人、秋田県で13.0人、仙北市で10.3人となっている。中学校は全国で13.2人、秋田県で10.2人、仙北市で6.7人となっている。児童生徒数の理想的な人数については、どれくらいかという確立されたものはない。しかし、一学級の人数という視点では、児童生徒が自分の考えを持って集団などで話し合い、学習課題を解決していく探求型の授業を充実させるためには、15人から20人と話す学者の方が多い。

**質問** 仙北市の不登校者の実態と主な原因は。

**答弁** (教育長) 令和元年12月末で、小学校3名、中学校19名である。原因としては、小学校では親子関係をめぐる問題や病欠欠席から学校に行きづらくなる児童、中学校ではいじめを除く友人関係をめぐる問題や情緒不安定などが報告されている。各学校では、スクールカウンセラーやソーシャルワーカー等と連携しながら、不登校児童生徒とその家庭の支援をしている。

(武藤義彦記)

# 新型コロナウイルスの感染対策と 経済支援策を早急に



蒼生会 田口 寿宜 議員

## 市長 早期に実効性の高い取り組みを提案する

### 財政状況を問う

**質問** 令和2年度の当初予算案が示されたが、本市を応援して下さる「ふるさと納税」のおかげで予算編成ができたと感じる。ここまで厳しい財政状況になった要因をシビアに分析しているのか。また、分析結果を基にこれまでのような行動を取ってきたのか。

**答弁** 市単独補助金事業の終期の設定や廃止の検討が遅れたこと、公営企業会計への一般会計からの繰出しの増加、公共施設の集約化の遅れ、第3セクターの見直しの遅れなどに加え、普通交付税が縮減



■財政改革も期待される建設中の新角館庁舎

されているのに、一般財源の削減ができていない、つまり身の丈に合っていない現状が、財政を厳しくしていると分析する。これを基に、病院事業の内部改革や下水道事業の公営企業会計移行による経営改善、第三セクター統合等による経営改善について取り組んでいる。

**質問** 財政状況を改善していく上で何が必要と考えるか。

**答弁** 公営企業会計事業を自主独立採算にすることや、公共施設の統廃合による維持管理経費の削減、事業の統廃合等による一般財源ベースの負担軽減や市債発行の抑制等が必要と考えている。

### 新型コロナウイルス感染症対策について

**質問** あらゆるツールを活用し、本市の医療機関での対応等も含め、もしもの時の対応をしっかりと市民に周知し、市民の不安を解消すべきではないか。

**答弁** 本市は、交流人口が多く感染リスクが高いので、強い危機管理意識で対応している。市のホームページやSNS等を活用して市民の不安解消に努めている。また、高齢

者に対する周知も保健課及び医療局が直接行っている。感染者を出さないように努める他、増えている問い合わせにも親身に対応している。

**質問** 感染された方やご家族が心無い誹謗中傷に合わない取り組みと相談体制を構築することが必要ではないか。

**答弁** 市民には、正しい情報を発信して、正しい知識を持つってもらうことが重要と考えている。保健センターには感染者のカウンセリング窓口を整備している。

**質問** 観光客の大幅な落ち込みへの対策や、経営が悪化した中小企業や小規模事業者の支援策は考えているのか。また、終息後すぐに稼げる環境を創り出すために、今から官・民が強力にタッグを組み行動するべきと考えるがいかがか。

**答弁** 今後2週間が感染を拡大させない最大の局面であり、市民が丸一つとなって耐えな

ればならない。経営悪化による経済支援については、国、県、金融機関と連携して、こまめな情報提供を行うと共に、市独自の利子補給や保証料全額負担等について検討している。また、融資を受けることが困難な事業者には何ができるのかを検討している。コロナウイルスが終息した後の稼げる体制を含めて、出来る限り早く実効性の高い施策を提案したい。

(高橋輝彦氏)



■閑散としている武家屋敷通り





市民クラブ 荒木田俊一 議員

予算編成が市民要望とマッチしているのか

市長 事業実施に時間を要するものもあり、改善したい

仙北市の財政と予算編成の在り方を問う

**質問** 市の財源が減少する中、財政調整基金の在り方を問う。基金の目安は標準財政規模の10%が適当と言われているが本市の状況はどうか。

また、市民の多くはインフラ整備等が不十分と感じているが、予算が市民の希望とマッチングしているのかを問いたい。

**答弁** 財政調整基金の目安としては13億円程度が適正だと考える。現在の残高は約6億5千万円となっており、5月には10億円を超えるが見込んでおり、潤沢ではないが十分に対応できる額であると思う。また、住民希望とのマッチングについて、事業の精査から財源確保、実施までに非常に時間がかかる場合も多々あり、改善に向け努力したい。

また、希望全てに応えることは非常に困難であるため、優先順位をつける必要があると考えている。

**質問** 新型コロナウイルス感染症拡大など、



■改良工事が進まない神代中央線

当初予算編成時から社会情勢が大きく変わった場合、補正予算で対応する余力が必要である。本来は、当初予算で財政調整基金を取り崩すのではなく、こうした事態に備えるべきであると考えているがどうか。

**答弁** 新型コロナウイルスの影響で社会情勢は大きく変化している。関係事業者が深刻な状況になっているため、国の財政支援に注視しつつも、市単独での対応をしなければならぬと考えている。

**質問** 平成29年度決算では、繰出し金が合計35億円にもなっているが、今後上下水道の維持などをどう持続できる

のか。また、予算編成が「ふるさと納税」に頼りすぎているのではないか。このままの寄付額が継続するのかわ不明であるため、使途を精査し、これを財政調整基金に積立てるなどするべきではないのか。

**答弁** 一般会計からの繰出しは基準の範囲内で行うが、経費の節減、収益の増加に真剣に取り組む。また、ふるさと納税の寄付金に頼った財政運営は避けるべきであると考えているが、寄付の目的に沿った形で予算に充当しており、寄付の性格上、活用することを優先している。

SDGsは浸透しているのか

**質問** SDGsについては、市民生活に浸透していないと思うがどう受け止めているのか。また、今後の進め方について、単なるイベントの実施ではなく、地域や職場など様々な環境の中で活動を地道に積み重ねていくべきと考えるがどうか。

**答弁** 取り組みの目標は、「誰一人取り残さない社会を作る」ことであるため、それを知って頂くことが重要だと思

う。仙北市では持続可能な開発目標推進本部を発足して全庁的にポスター、チラシ等で市民の方々に関心を持って頂けるよう努めている。

不要な公共施設の処分を急げ

**質問** 不要な公共施設等はどうのような管理状況にあるのかを問う。解体や処分の方針についてはどうなっているのか。厳しい財政運営の中心を求めている。

**答弁** 不要な施設等は所管課で管理している、令和2年度からは所管を一括したい。できるだけ早く個別計画を策定し35%の縮減目標を達成したい。

小中学校における主権者教育について

**質問** 市における主権者教育はどのよう行われているのか。  
**答弁** (教育長) 児童生徒が国家及び社会の一員としての資質、能力を育成する学習として、国民の権利や義務、政治経済、消費生活など様々な点について行われている。

(小木田隆記)

# 一企業に1億円の助成は財政上耐えられるか

高久昭二 議員



市長

## 過疎対策債を活用し7割が国庫負担となるため 財政上有利だ

### 植物工場「仮称ベジタブルファクトリー田沢湖」の事業展開について

**質問** 市と株田沢モーターズ間で、いつ話し合いがなされるか伺う。

**答弁** 平成30年12月19日に先行操業していた鹿角市・大館市を田沢モーターズ・地元金融機関・仙北市で視察した。以来、9回協議を行い今日に至っている。地区住民説明会を16日に開催予定が、コロナウイルス感染症防止の為に延期している。

**質問** 財源確保、金融機関と市の役割、事業主体について問う。また、レタスの生産・販売先はどのようなものか。

**答弁** 植物工場建設事業費25億7,400万円、財源は、国庫補助金10億円、市補助金過疎対策ソフト事業で1億円、残り14億7,400万円は、自己資金と融資と聞いている。水道事業と構内道路整備は、残地活用も含め市で応援する。事業主体としては、田沢モーターズを中心とした企業体の設立準備が進んでいる。レタスは、技術提供する企業の全量買い取りとなる模様だ。



■植物工場整備予定の黒沢工業団地

**質問** 一企業に対し1億円を超える助成をすることについて、財政的に耐えられるのか。また、栽培ノウハウを提供する企業はどこなのか。

**答弁** 1億円は過疎対策債で、7割が国庫負担となる償還の有利な財源である。企業名は信義に基づき公表できない。

**質問** 農水省への申請は提出したのか。

**答弁** (農林部長) 計画書はまだ提出されていないが、提出されると年度末に内々示が出るとのことである。

### 角館下延大瀬蔵野橋 架け替えについて

**質問** ①いつ決定したのか②何を基準に用地買収を行ったのか③現橋の架け替えは可能か④辺地債8億円中、市負担1、6億円は財政を圧迫しないか⑤説明会の開催は⑥市民から住民監査請求しているが、その返答はいつかについて伺う。

**答弁** ①架設後50年が経過している。劣化の激しい橋で平成26年に検討を開始した。令和元年に議会から計画変更の承認を頂いた。②近傍の売買実例を勘案の上単価決定した。③地域振興局より同じ場所への架け替えは不可との事。④辺地債の活用が最も有利である。⑤平成30年11月16日、地域住民へ事業説明会を開催した。⑥できるだけ早く、真摯に対応する。

### 義務教育の無償化推進について

**質問** 学校給食費の無償化、半額免除等の検討は行ったのか。

**答弁** (教育長) 半額補助、副食費無償化の検討を行ったが財政上難しい。

**質問** 小学校の卒業記念アルバムが1冊2万3千円する。関係者と協議しての値段か。

**答弁** (教育長) アルバム見本を提示して保護者が業者を選定する仕組みになっている。

**質問** 市の子育て支援、福祉政策で誇れる施策があるのか伺う。

**答弁** 市単独事業の在宅子育てサポート事業(就学前児童を在宅で育てる家庭に1児童1万円の子育てサポート券支給)を新年度から1万5千円にしたい。(熊谷一夫記)



■建設工事中の大瀬蔵野橋





市民クラブ 伊藤 邦彦 議員

神代地区ほ場整備事業と道路の曲折、水道管はどうするのか

市長

ほ場整備事業と蛇行部分を直線に、水道管も敷設替えをする

神代地区農地基盤整備について

**質問** 神代地区の基盤整備と神代・西明寺線の道路の曲折、水道施設の方向性をどうするのか伺う。

**答弁** 県営ほ場整備事業と合わせて蛇行部分を直線にする事を検討している。路線に水道管があるが、新設の市道に敷設替えをしなければと思う。

**質問** 道路を直線にしてほ場を作るということは、今までの道路下の水道管を敷設替えするという事か。数年前に西明寺地区から引水した際には、既に基盤整備事業が予定されており、水道管敷設を3〜5年待ってもらおうなどの交渉はなかったのか。

**答弁** 道路を改修する時は水道事業も附帯していくのが整合であり、経費は掛かるが重要な事業との認識である。当時は、基盤整備事業が確定しておらず水道事業として行わなければならなかった。

**質問** 現在の水道加入率と費やした費用を伺う。

**答弁** (建設部長) 20%弱という加入率で、費用については少し時間を頂きたい。

市の危機管理を問う

**質問** 本市に配備予定の地上35m高規格のはしご車(2.4億円)は本当に必要か。配置の基準はあるのか。

**答弁** 消防庁の告示第1号では、はしご自動車の配置基準として、高さ15メートル以上の建築物の火災鎮圧等のため、1つの消防署の管轄区域に中高層建築物の数が概ね10棟以上、または旅館、ホテルで5棟以上ある場合、はしご自動車1台以上を当該消防署またはその出張所に配備するものとされている。当市では該当する建物が9棟存在しており、大変高額ではあるが安全対策のため基準に従う。

**質問** 危機管理監の認識はどうか。

**答弁** (危機管理監) 現在の車両は25年間使用し、老朽化も進んでいる。観光客の皆様も安心・安全を考える上でも必要なものと考えている。

**質問** いざという時の消防体制を問うが、日中など、団員が仕事等で出勤できない場合の対策はあるのか。

**答弁** 田沢湖分署は21人3班の交替制、高原地区第1分団は10名在団している。日中の

消防活動については、消防団と話し合い防災対策に盛り込む。

**質問** 4月から田沢診療所が廃止され、上桧木内、桧木内の診療日数も減る。その後はどうするつもりなのか。

**答弁** 田沢は週1回無料タクシーを運行する。桧木内・上桧木内についても総合力を高め医療を提供する観点からの対応である。

**質問** 市内の防犯カメラの設置状況と街灯の要望と実績を伺う。

**答弁** 市内防犯カメラ設置数は20基である。令和元年度の防犯灯は、45件の要望に対し42件が設置されている。

地上イメージについて

**質問** 地上イージス新屋地区配備は、学校や住宅地も近いので一考を願いたいとするものであ



■配備予定の消防はしご車

るが、この問題について知事や佐藤県議と話し合いをした事はあるか。

**答弁** 無関心ではいられない事案なので、佐竹知事、佐藤県議とも情報共有のため、様々な話し合いをしている。(高久昭二記)

# 仙北市は持続可能な自治体経営と 言えるのか

市民クラブ 阿部則比古 議員



市長

## 特殊な財政事情の後はスリム化を図り 健全化に努めたい

### 一般会計の予算規模 は大きすぎないのか

**質問** 今後、交付金の削減や自主財源の先細りが強く懸念される中、市内インフラの維持管理に多額の負担を強いられることとなり、さらに各庁舎の抱える様々な問題や、不要になった(今後不要になる)市有建築物の解体整理にも相当額の費用を要する現状と合わせて、想定を超える急速な人口の減少や、高齢化による社会保障費の増大も大きな問題となっており、市ではこれまで、先行きを無視して財政運営をしてきたと言われても仕方がないのではないかと考えるが見解を伺う。

**答弁** 一般会計の規模が大きすぎ、身の丈を超えた予算になってしまっていることについては、何回もその理由等について説明をしてきているところだ。令和2年度の当初予算(214億6千万円)の中でも、特殊財政事情(その年度で特別な取組みをする事業等)が続いており、予算規模が大きくなっているが、基本的には180億円台まで事業を圧縮したいと考えている。交付税は、基準財政収入額

と需要額の差額部分に対して計数が掛けられて算定されるが、年々低くなってきている。様々な国の動静があつて、数%の上増しを維持できているという現状で、この状況を長く続けることは、厳しいものと認識している。

予算規模を180億円台にしていくためには、企業会計の健全化が望まれるが、水道事業や病院事業等で、一般会計から拠出される額のうち、拠出根拠が総務省令以外のもの、プラスアルファのものについてはできるだけ抑えていかなければならないものと考えている。

あわせて、各種団体に対する補助、交付金事業の見直し、公共施設の管理等について、仙北市全体でスリム化を目指して取り組まなければならぬ。喫緊の課題であるという認識だ。

### 仙北市の医療行政は

**質問** 市立角館総合病院の経営状況が思いのほか芳しくないため、更に一般会計から補正で3億円以上もの繰入れをしようとしているが、市の医療行政について見解を伺う。

**答弁** 着任した当時から、医

療局の設置や管理者を定めることについての構想は、病院事業改革の計画中に盛り込まれていたものであるが、議論された方向付けをまず踏襲するということが必要だという判断で今日に至っている。

2つの病院と5つの診療機関は、全てが市の医療拠点、医療資源であり、これを有効に機能させるために連動させることが医療改善の大きな柱立てだ。それをコントロールするために管理者を定めたものである。

医療局は、管理者が医療政策を実現するための実行部隊であり、角館総合病院の改革と田沢湖病院の運営とが連動するために必要

な組織であるという考え方のもと取り組んできたが、

医師不足が改善できず、赤字経営が続き、資金不足を起している状況に対し申し訳なく思っている。

現在、大曲厚生医療センターとの連携がかなったことにより、次のステップが開けるものと考えている。

(真崎寿浩記)



■経営改善が求められる市立角館総合病院





議員 真崎 寿浩 蒼生会

## 神代卒田地区への西明寺低区第2浄水場からの配水は可能か

### 市長 新たな浄水場の建設をすることなく給水できる

#### 神代地区の水道事業は

**質問** 今年度、神代卒田地区の水道事業が始まる。平成30年度の黒倉地区の調査では給水人口が895人であったが、今年度計画の給水人口は272人になっている。変更の理由について伺う。

**答弁** 当初計画していた区域は、遺跡や浄水場、管路、予算の関係で見直しをした。低コストで最高の効果が得られる道筋を見つけた。

昨年度実施した関係区域の意向調査結果を参考にした。

**質問** 意向調査の設問について伺う。署名捺印の箇所があり、戸惑われた方もいたようだが真意は。

**答弁** 進め方で一番重要なことは、市民の皆様への加入率である。巨額な金額



■国道46号線を横断して更なる拡大を担う西明寺低区浄水場

(19億円)を投下しても加入する方がいないのでは効率が悪いことになる。加入する世帯を中心に配水の路網を検討するため意思確認をさせて頂いた。

**質問** 西木地区からの管路の流量で十分間に合うのか。

**答弁** 卒田地区の対象世帯の

内、加入意思のある世帯に絞り込んだ場合、西明寺地区低区第2浄水場からの配水で、新たな浄水場の建設をすることなく給水できることがわかった。9億8000万円程度まで予算を縮小できると予測している。

**質問** 意向調査の結果と説明会の開催について伺う。

**答弁** 調査は、神代地域、卒田地域合わせて28地区472世帯を対象とした。259世帯の回答で率にすると、54.9%だった。「水道が必要」と答えた方は、全体の35.2%、「現在の飲用水に不安や不便を感じている」と答えた方は、全体の23.9%だった。水道の加入については、即時加入から将来的には加入を合わせると全体の38%だった。

西明寺低区第2浄水場から配水可能となり、国庫補助の対象となった場合、各世帯の同意書が求められるので、アンケートに同意書欄を設けた。同意書の提出を頂いた世帯は177世帯で37.5%だった。

説明会は、昨年12月23日に実施している。

**質問** 今回計画から外れた地域の対応について伺う。

**答弁** 加入意思のある世帯に対し再調査を令和5年度まで行う。令和5年度以降も事業認可から外されているわけではない。来年度の仙北水道事業基本計画に盛り込みたい。卒田地区水道未普及地域解消事業完了は、令和7年度になる。

#### 学校施設の充実を求め

**質問** 学校は、児童生徒が学び育ちあう場であると同時に、教職員の職場でもある。学校評議員制度が実施されて20年になるが、評議員の意見はどのように現場に反映され生かされているのか。

**答弁** (教育長) 教育委員会が中心となり、評議員の意見について周知し意思統一を図っている。豊かな人間性を育む教育環境として充実しているとは言えない部分もあるが、施設のバリアフリー化、トイレの洋式化、雨漏り修繕の要望などが多く改善や実施に努めている。職員トイレ改修の要望もあり対応した学校もある。

(平岡裕子記)

# 鳥獣被害額はどれくらいか



養生会 八柳良太郎 議員

## 市長 被害額の算出は困難である

### 鳥獣被害対策 市民の安全、観光資源、農作物を守れ

**質問** 仙北市の過去5年間の捕獲有害鳥獣は、ツキノワグマ183頭、ノウサギ60匹、ウソ210羽、カラス362羽等計864個体である。その被害額と内容を伺う。

**答弁** ツキノワグマは水稲未登熟米、スイカ、トウモロコシ、粟などの農作物の食害で、被害額は5年間で483万円である。ノウサギは杉の若芽の食害、ウソは桜の花芽の食害で、観光への影響は甚大だが、被害額として積算することとは困難である。カラスはトウモロコシ等の食害、キジバトは大豆や水稲、アナグマはエダマメや養魚の食害、カルガモは水稲、ニホンザルは柿の食害などである。いずれも銃器等での駆除を行っている。

**質問** 令和元年度の有害駆除費424万2千円の内訳を問う。

**答弁** 鳥獣被害対策実施隊の報酬として282万円、檻の修繕料が36万円、鳥獣被害防止計画に搭載しているツキノワグマ、ニホンジカ、イノシ

シ以外の鳥獣を駆除するための、猟友会への委託料が30万円、クマ捕獲用の檻の購入費が60万円、新規狩猟免許取得者へ12万円、その他経費で4万2千円である。平成30年度の決算額は620万円で、内、鳥獣被害対策実施隊の報酬281万円、檻の修繕料27万円、鳥獣被害防止計画に搭載しているツキノワグマ以外の鳥獣を駆除するための猟友会への委託料30万円、注意看板製作委託料11万円、クマ捕獲用檻の購入費58万円、新規狩猟免許取得者へ10万円、田沢湖ライフル射撃場整備事業補助金200万円、その他経費2万円である。

**質問** 近年、クマの生息数が増加傾向（外ノ山近辺、古城山に出没）にある。迅速な対応により人身保護を求め。また、農作物等の被害軽減を図る上で、電気柵を活用してはどうか。加えて、ジビエ（野生鳥獣肉）料理の普及が新たな食文化の発展に資すると考

えるがどうか。  
**答弁** クマについては現行ルールの範囲内で最大限対策をする。電気柵の活用も十分検討していく。ジビエについても取り組みたい事業であ

る。また、カラスやウソ、カワウについてには現在有効な対策を持ち合わせていないが、関係機関と連携し様々な取り組みを実施する。  
(門脇晃幸記)



■ウソの食害を受ける古城山